子宮頸（けい）がん予防接種の大切なお知らせ

あなたと関係のあるがんがあります

子宮頸がんとはどんな病気？

子宮頸がんは、子宮頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。日本では毎年、約１万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。

まずは病気とワクチンについて知ってください！

※このお知らせは国のHPVワクチンに関するリーフレット(2025年2月改訂版)をもとに作成しました。

接種スケジュール

一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計２回または３回接種します。接種を開始する年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。

15歳未満で接種を開始すると、合計**２回**で接種が完了します。

いずれの接種回数でも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※１　１回目と２回目の接種は、少なくとも５か月以上あけます。５か月未満である場合、３回目の接種が必要になります。

※２・３　２回目と３回目の接種がそれぞれ１回目の２か月後と６か月後にできない場合、２回目は１回目から１か月以上(※２)、３回目は２回目から３か月以上(※３)あけます。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

▶接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関

※愛知県は協力医療機関が11施設(うち名古屋市内は3施設)(令和8年1月現在)あり、バックアップ体制を整えています。協力医療機関の受診については、接種を行った医師又はかかりつけの医師にご相談ください。

不安や疑問があるとき、健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき

▶下記の予防接種電話相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

▶厚生労働省　感染症・予防接種相談窓口

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労省　HPV

HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q＆A)については、こちらをご確認ください。

問い合わせ先

名古屋市子宮頸がん予防接種電話相談窓口　052-972-3379
名古屋市予防接種電話相談窓口　052-972-3969
名古屋市健康福祉局感染症対策課
名古屋市公式ウェブサイト　https:www.city.nagoya.jp/　1009516　ページID検索　で検索

2026.2作成

ウイルス感染でおこる子宮頸がん

「がんってたばこでなるんでしょ？」「オトナがなるものだから私は関係ない」って思っていませんか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこるがんもあり、その１つに子宮頸がんがあります。HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられていますが、このウイルスは、**女性の多くが「一生に一度は感染する」**と言われるウイルスです（※）。

感染しても、ほとんどの人は自然に消えますが、**一部の人でがんになってしまう**ことがあります。現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

(※)HPVは一度でも性的接触の経験があれば、誰でも感染する可能性があります。

子宮頸がんで苦しまないためにできること

① **今できること：HPVワクチン**

▶HPVの感染を予防します

② **20歳になったらできること：子宮頸がん検診**

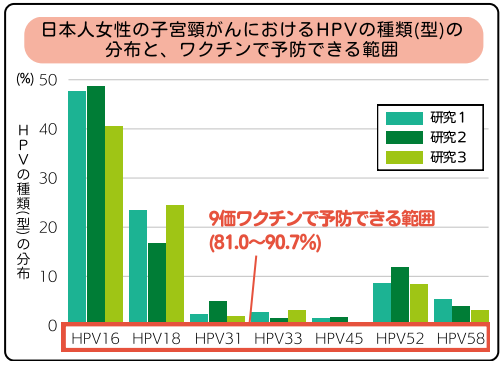
▶がんを早期発見し治療します

▶20歳以上の方は、定期的に受診を

HPVワクチンの効果

現在日本において公費で受けられるHPVワクチンは、9価ワクチン(シルガード®９)の１種類です。

シルガード®９は、子宮頸がんを起こしやすい種類（型）であるHPV16型と18型に加え、ほかの５種類のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の**80～90%を防ぎます**。



「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン　ファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成

研究１：Onuki,M.,et al.(2009).Cancer Sci 100(7):1312-1316

研究２：Azuma,Y.,et al.(2014).Jpn J Clin Oncol 44(10):910-917.

研究３：Sakamoto,J.,et al.(2018).Papillomavirus Res 6:46-51.

これまでに、２価または４価のHPVワクチンを１回または２回接種した方へ

令和８年４月１日より、２価及び４価のHPVワクチンは定期接種の対象外となりました。既に接種を開始している方は、医師と相談のうえ、途中から９価ワクチンに変更し、残りの接種を完了することも可能です。

HPVワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)が起こることがあります。

発生頻度	9価ワクチン（シルガード®９）
50%以上	疼痛※
10～50%未満	腫脹※、紅斑※、頭痛
1～10%未満	浮動性めまい 、悪心 、下痢 、そう痒感※、発熱 、疲労 、内出血※など
1%未満	嘔吐 、腹痛 、筋肉痛 、関節痛 、出血※、血腫※、倦怠感 、硬結※など
頻度不明	感覚鈍麻 、失神 、四肢痛 など

シルガード®９添付文書(第1版)より改編　　※接種した部位の症状

因果関係があるかどうかわからないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、接種1万人あたり約3人です。

このうち、報告した医師や企業が重篤と判断した人は、接種1万人あたり約2人です。

ワクチン接種の注意点

- 筋肉注射という方法で接種しますが、注射針を刺した直後から、強い痛みやしびれを感じた場合はすぐに医師にお伝えください。
- 痛みや緊張等によって接種直後に一時的に失神や立ちくらみ等が生じることがあります。接種後30分程度は安静にしてください。
- 接種を受けた日は、はげしい運動は控えましょう。
- 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を行った医療機関などの医師にご相談ください。
- HPVワクチンは、合計2回または3回接種しますが、接種した際に気になる症状が現れた場合は、それ以降の接種をやめることができます。

予防接種健康被害について

予防接種は極めてまれですが、接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。HPVワクチンに限らず、全ての定期接種のワクチン接種によって健康被害が生じた場合は、自治体の予防接種担当窓口で相談することができます。

連絡先は、問い合わせ先をご覧ください。